

VR2.0



# 株式会社エージェンテック 紹介



株式会社エージェンテック

# 会社概要

|        |                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 社名     | 株式会社エージェンテック (AGENTEC Co.,Ltd.)                                                                                                                                                                                                             |
| 設立     | 2004年1月29日                                                                                                                                                                                                                                  |
| 資本金    | 4,000万円                                                                                                                                                                                                                                     |
| 所在地    | <p><b>本社</b><br/>東京都千代田区神田司町2-2 新倉ビル6F</p> <p><b>大阪支店</b><br/>大阪府大阪市西区立売堀 1-4-12 立売堀スクエアビル 8F-12</p> <p><b>名古屋営業所</b><br/>愛知県名古屋市中村区名駅南1-11-12 名駅Minami-One 1F-6</p> <p><b>韓国支店</b><br/>701-A113, 98, Digital-ro 26-gil, Guro-gu, Seoul</p> |
| 代表者    | 代表取締役社長 金 淙採 (キム・ジョンチェ)                                                                                                                                                                                                                     |
| ホームページ | <a href="https://agentec.jp/">https://agentec.jp/</a>                                                                                                                                                                                       |
| 事業内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトウェアおよびシステム開発</li> <li>・アプリケーション開発</li> <li>・システムコンサルティング</li> <li>・システム運用サポート</li> <li>・システム開発運用に関するアウトソーシング ほか</li> </ul>                                                                       |

## 主要取引先

(五十音順・敬称略)

株式会社大塚商会、株式会社オカムラ、オムロンフィールドエンジニアリング株式会社、KDDI株式会社、CTCエスピー株式会社、ソフトバンク株式会社、株式会社DGコミュニケーションズ、株式会社テレビ東京ホールディングス、株式会社電通テック、日本トイザらス株式会社、日本ユニシス株式会社、パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社、株式会社日立製作所、株式会社日比谷花壇、マスプロ電工株式会社、三菱地所レジデンス株式会社 ほか



NEW VALUE INNOVATOR

未来を切り開くIT価値を世界へ



本社

## 理念

**「未来を切り開くIT価値を創造し、  
広く世界へ提供する」**

将来のニーズを見据えた新しいIT価値を世界の人々に提供していきます。

## 目標

**「次なるデジタル化の形で様々な分野に  
活用できるソリューションを提供する」**

書籍、音楽、映画などをデジタル配信することで多くのメリットが生まれ、様々な分野で活用されています。

当社は「デジタル情報の融合」という次なるデジタル化の形を提唱し、新たな市場を創造します。

# 次なるデジタル化とは

## これまでのデジタル化



単なるデジタル化では、情報自体は**変わらない**

情報

×

情報

=

新たな価値

次なるデジタル化では、デジタル化された情報と情報を  
**コンビネーション**することで**新たな価値**を生み出します。

## 次なるデジタル化の例



ドキュメント

×



写真

×



動画

×



パノラマVR

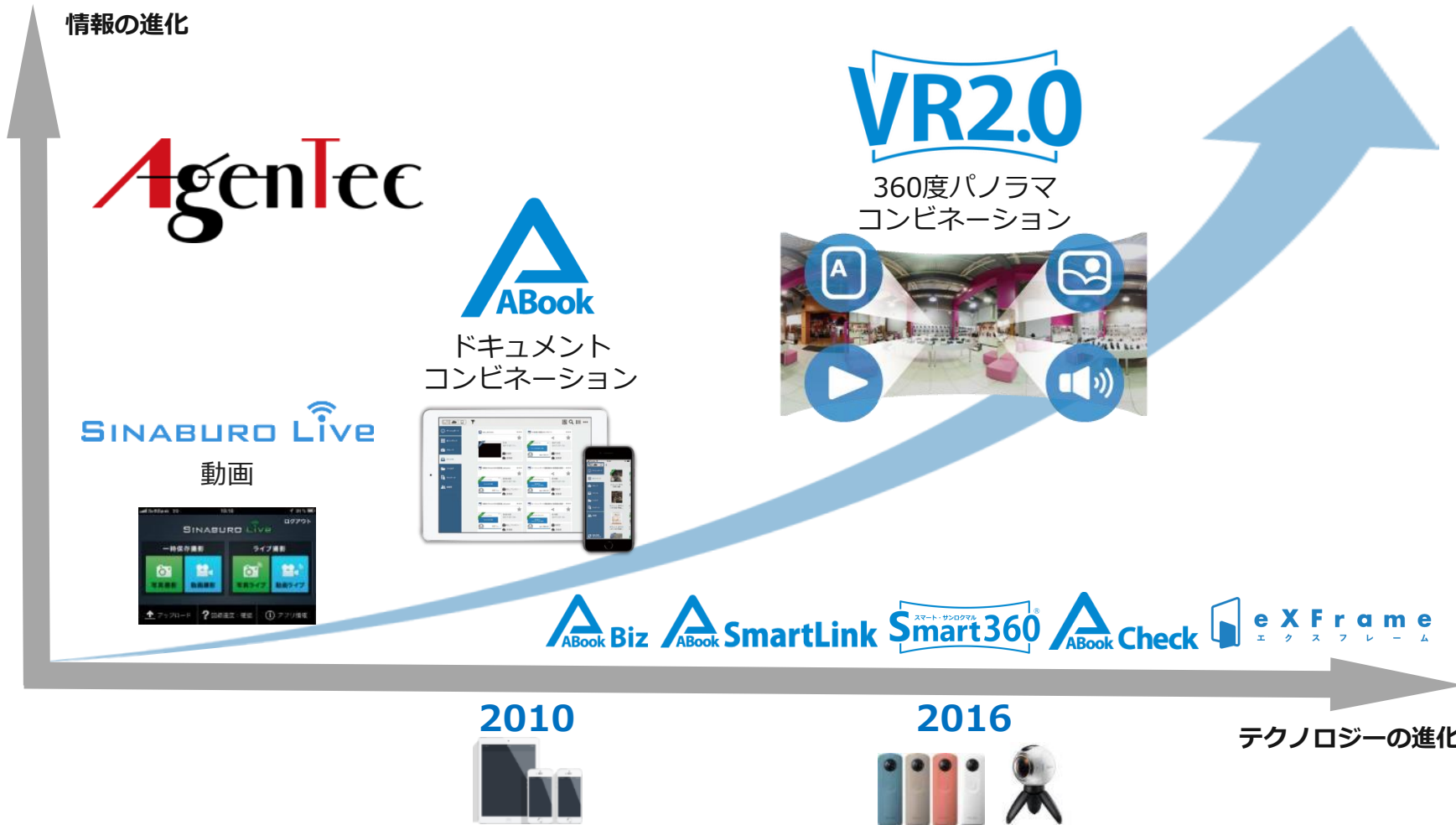
=

次世代マニュアル

直観的で伝わる情報

# エージェンテックの強み

時代のニーズを先取りし、**次なるデジタル化**の形を創出し、  
 様々なITソリューションを開発し続けています。



# 製品ラインナップ

## タブレット スマートフォン



### コンテンツ管理ソリューション



### VRコンテンツ管理ソリューション



### モバイル報告ツール



### 次世代帳票ソリューション



## デジタルサイネージ



### 双方向性デジタルサイネージ



### VRデジタルサイネージ



## Web (PC・モバイル)



### パノラマVRソリューション



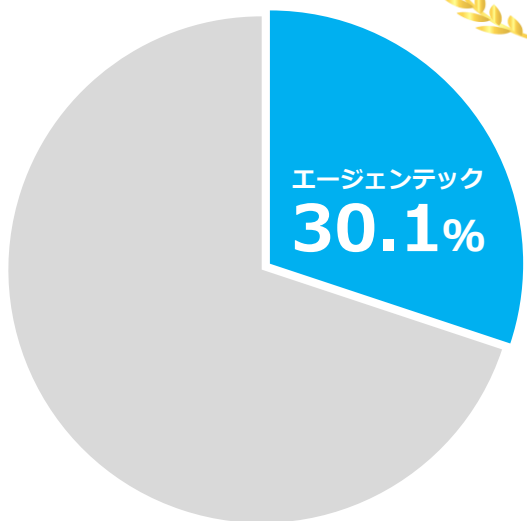
# エージェントック製品の実績

ABookシリーズの導入状況

2020年10月時点の有効契約に基づく

約**640**社 約**400,000**端末

出荷金額シェア

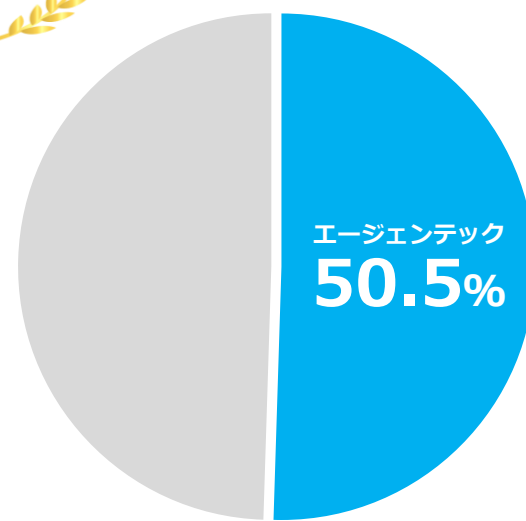


6年連続  
**No.1** (※)

モバイルコンテンツ管理  
(MCM) 市場



出荷ID数シェア



※ミック経済研究所「コラボレーション・モバイル管理ソフトの市場展望2020年度版」による2019年度実績



### 「2017 Red Herring Top 100 Asia」受賞（2017/9）

弊社が推進する新しいVRの概念「VR2.0」を中心にアジアから世界の市場に向けた優位性や事業戦略を発表。弊社製品「ABook360」を利用したプレゼンテーションが注目を集めました。



### 「Tablet Solution Award 2012」受賞（2012/3）

コンテンツ共有ソリューション「ABook」が「タブレット端末を活用することで、業務を効率化できるという可能性を示した」ことを評価され、受賞しました。



### 「中小企業優秀新技術・新製品賞 ソフトウェア部門 優秀賞」受賞（2017/4）

VRソリューション「Smart360」が「インターネットを通じた情報発信のレベルアップに役立つ」ことが評価され、受賞しました。



### 「MCPC award 2016 プロバイダー部門 優秀賞」受賞（2016/11）

VRソリューション「Smart360」が「マーケット活性化に貢献している独創的なサービス」であることが評価され、受賞しました。



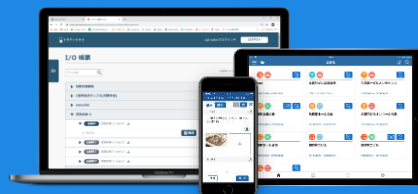
VR2.0



e X F r a m e  
エクスフレーム

次世代帳票ソリューション

製品のご紹介



ニューノーマル時代の  
新しい働き方をサポート



Agentec

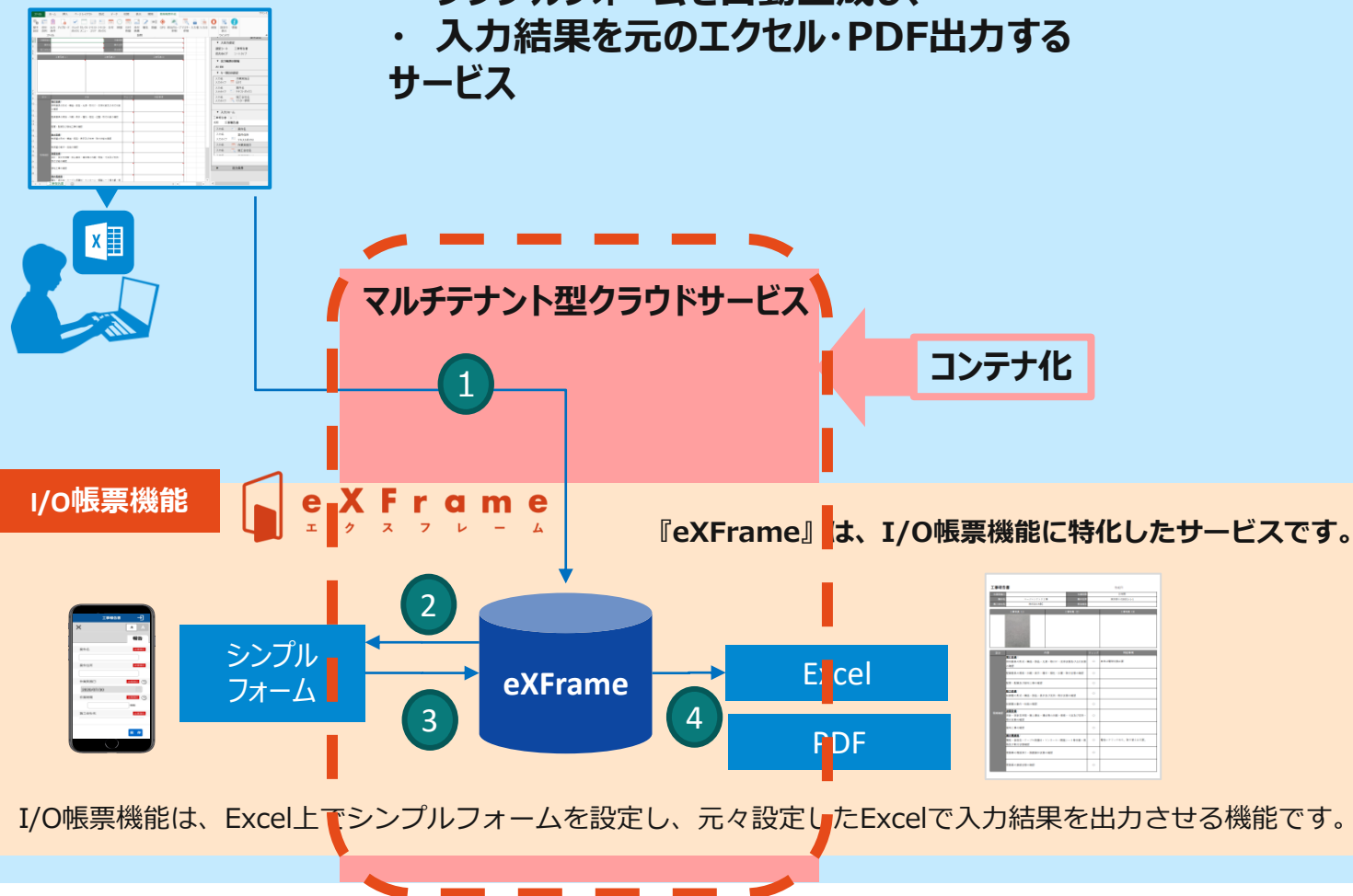
株式会社エージェンテック

# eXFrameのデータフロー概要

『eXFrame』とは、I/O帳票機能を用いて

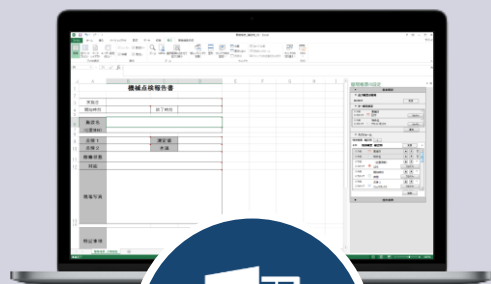
- ・ 既存のエクセル帳票を利用し、
- ・ シンプルフォームを自動生成し、
- ・ 入力結果を元のエクセル・PDF出力する

サービス



エクスフレーム  
eXFrame 3 つの特長

帳票からアプリ作成



アプリで簡単報告



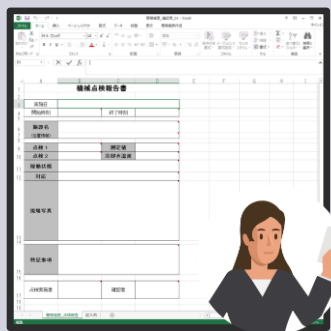
柔軟な運用設計



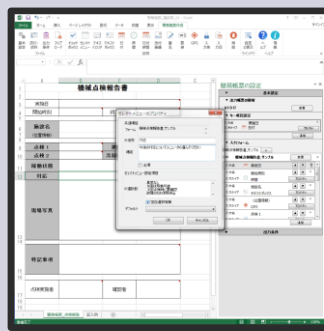
手軽に帳票のデジタル化を実現

## 1 時間で報告アプリを作成

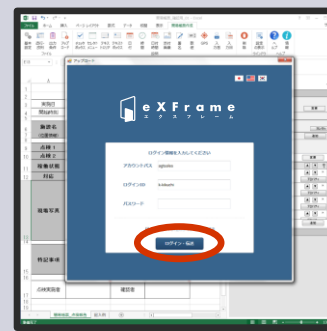
### 今ある帳票を活用



### アプリに紐付け



### アップロード



### アプリに配信



作業グループ設定



作業期間設定

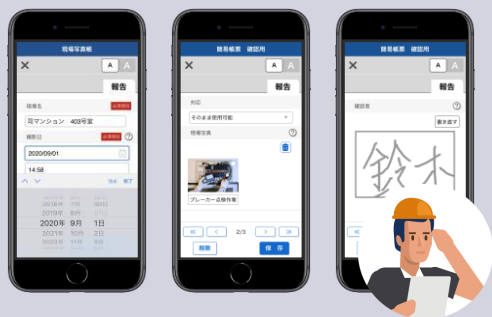


リビジョン管理（版管理）

## 今ある帳票をそのままアプリ化

## 現場の状況を“見える化”

### カンタン入力



### リアルタイムに共有



### 帳票を自動生成



GPS情報取得



オフライン入力可能



豊富な入力形式

## 書類作成も省力化・残業をゼロに

## 業務に合わせた運用が可能

### ケース1 複数人・時間差の入力



### ケース2 定期的に繰り返す作業



※対応業務の一例です

今の業務フローを変えずに導入・運用

## 製造

- 製造日報
- 品質チェック
- 設備定期点検



## 営業

- 営業日報
- 商談報告
- 店舗巡回報告



## 保守点検

- 定期点検
- 修繕工事記録
- 工事完了報告



## 建設

- 施工管理
- 工事記録
- 工事完了報告



## 店舗

- 業務管理
- 店舗管理
- クレーム報告



あらゆる業種の帳票をペーパーレス化



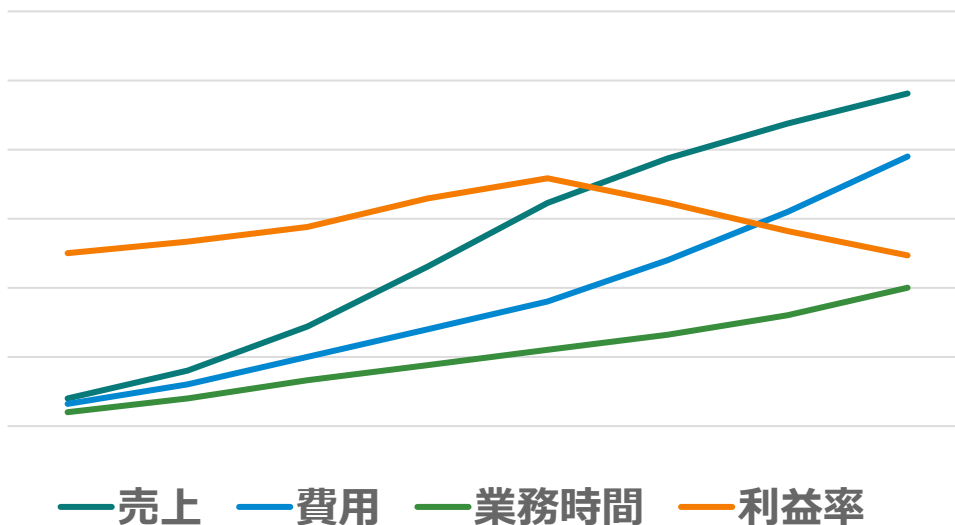
VR2.0

# コンテナ技術の導入



株式会社エージェンテック

# コンテナ技術の導入背景



- システム環境改善
- ・売上増加は維持
  - ・費用削減
  - ・運用自動化
  - ・障害自動対応
  - ・働き方改革
    - 業務時間短縮
    - 開発へ集中



Rapid Delivery

Process



Cost Saving

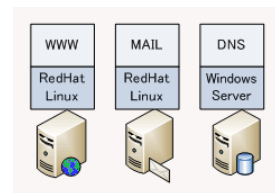
Resource



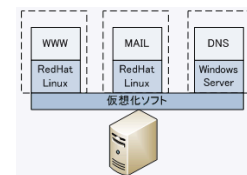
利益率向上  
開発集中



物理サーバ



VMWare



- パッケージ設置の**作業工数**が増加している。（**開発者**も現場作業に**投入**）
  - SWアップグレード、パッチ当てに手間と時間がかかる。
  - HWリプレイスは**リスクも高い**。
  - 障害対応で、週末も夜間でも対応が必要。
  - 上記の対応で、エンジニアのリソースを開発に集中させられない。
- かつ、運用コストが高くなってしまう。

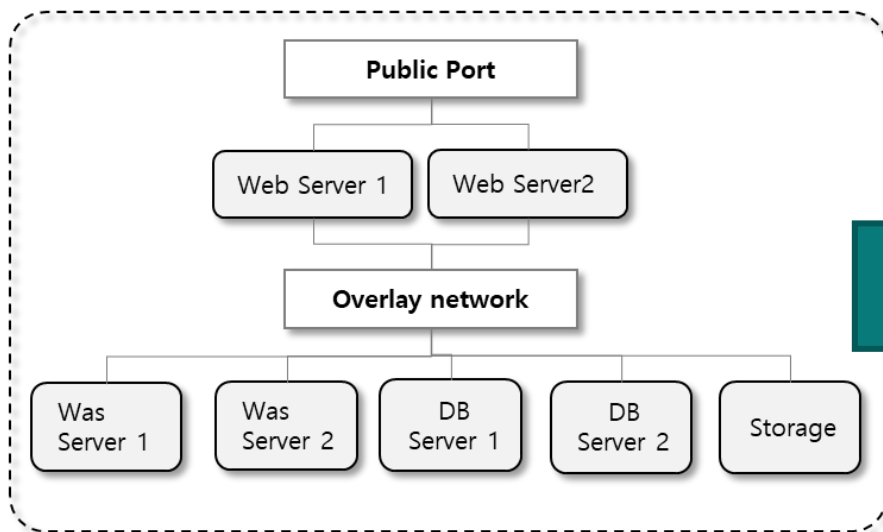
# 最先端技術の山

未知の技術  
技術の**高いハードル**  
本番運用事例  
**ほぼゼロ**

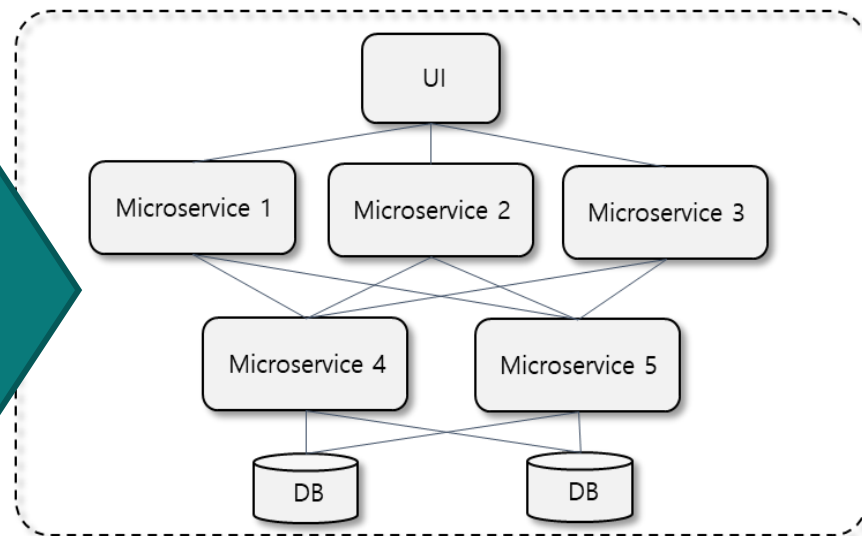


## 導入の課題 2. MSAで機能別のコンテナ化

一般的なシステム  
モノリシック



効率的な運用が可能なシステム  
マイクロサービスアーキテクチャ



どのように分けるか？

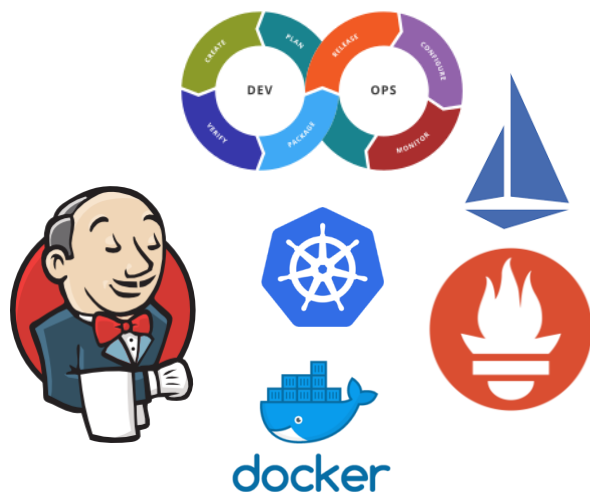
考え方の切り替えは？

分けたら、管理は？

サポート受けない！

## 課題、その3. Kubernetes VS. コンテナソリューション

### OSSを自ら構成、 運用する

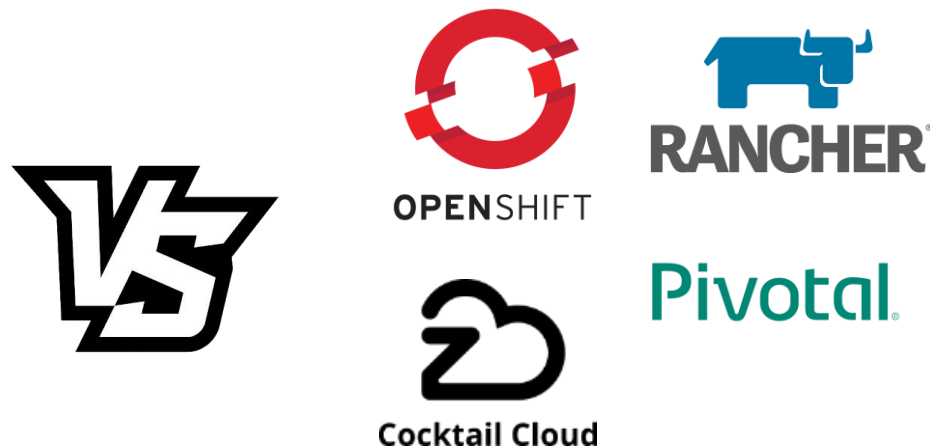


#### ◆ 自由に構成し、運用可能。

ビルド、パイプライン、コンテナイメージ管理、デプロイ、モニタリング、サービス間通信、Kubernetes管理、クラスター構築、ユーザ管理も自分で構成

→ **高い技術力が必要**

### 商用コンテナプラットフォームで 運用する



#### ◆ 構成が決まっている。

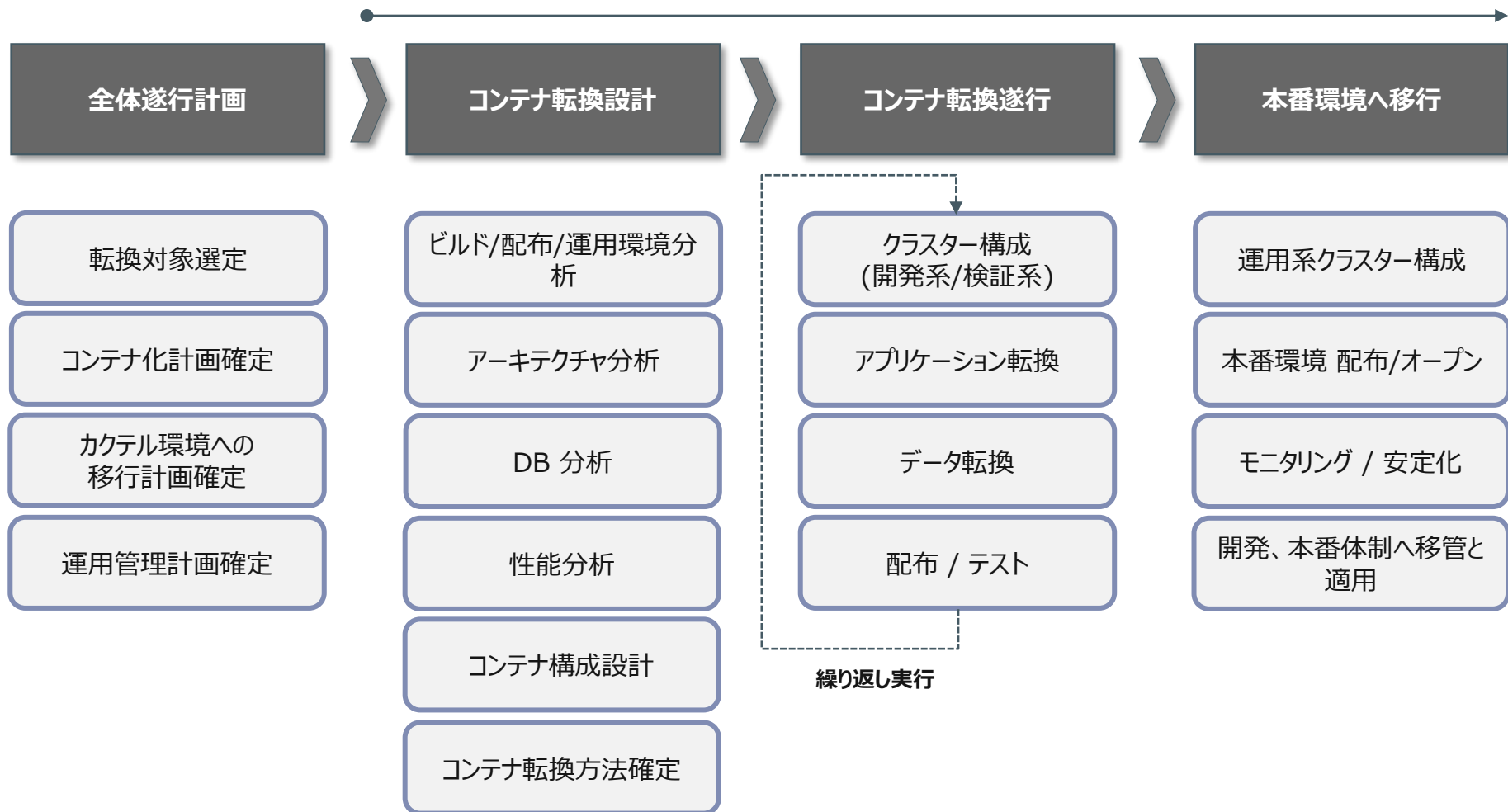
ほとんどの製品はビルド～デプロイ、ユーザ管理、マルチクラウド、マルチクラスタ機能を提供。

→ 比較的導入は簡単。

#### ◆ 導入サポート、製品サポート

※技術サポート可能な場合もあり。

対象アプリケーション別遂行



## Kubernetes機能を効果的に利用

- Self-Healing（自動復旧）
- Rolling Update（無停止アップデート）
- Rollback（迅速戻し）

メンテナンス時間短縮

→エンジニア負担減少

→運用負荷↓、業務効率↑

## サービス環境の規模縮小

- Auto-Scaling（自動拡張、縮小）
- コンテナ配布で、構築時間短縮
- 初期環境のリソース最小化  
（例、WebServer:CPU 0.1vcore, 200MB）

→ 運用コスト削減  
期待値は、以前の1/10程度

## 開発管理、開発ルールの一元化

- ・コンテナイメージ管理（バージョン管理）
- ・カタログ（パッケージ機能）
- ・パイプライン（CI/CD）
- ・ユーザ別の権限管理

→ DevOpsで開発効率向上、  
パッケージ再利用で生産性強化  
セキュリティ環境提供

## 全てのABookシリーズをコンテナでサービス

- ・開発力の強化
- ・コスト削減
- ・働き改革達成
- ・DX時代のリーディング企業

## コンテナ化の技術サポート

- ・コンテナ化コンサルティング
- ・コンテナ環境の提案と導入サポート

ご清聴ありがとうございました